

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	府中市若松町 3 - 2 1 - 4
園名	府中市立東保育所

1. 活動のテーマ

<テーマ>

野菜

<テーマの設定理由>

毎日の給食の中で食材への関心が広がっている。食育活動の一環として、園庭のプランターでの野菜作りを行う中で、子どもたちは苗や種への興味や畑と砂場の土の違いなどに着目している。野菜の栽培を通して、子どもたちの気づきや発見、不思議に思う気持ちを探求するため。

2. 活動スケジュール

5月：ゴーヤ、ナス、ピーマンの苗を植える。

家庭から出る野菜や果物の種を持ち寄り植えてみる。

6月：発芽や成長を見守る。何の苗かわかるように絵を描く。

7月：花の様子を見る。受粉を行う所を見る。

8月：収穫、食べる経験をする。

自分たちが買い物先で見かける野菜との違いを感じながら味を確かめ、声にする。

9月：プランターなどを片づけ、畑の草取りなどを行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・プランター、麻袋、培養土、有機肥料、苗、種、支柱
- ・図鑑、食べ物の絵本
- ・育ちが見える場所にプランターを設置した。
- ・いろいろな野菜の種についての話題を出し、子どもたちと種について話した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

毎年野菜の栽培をする中で、苗や種を植える活動をしていたが、自分たちが食べている野菜や果物にも種があることを確認しあう。実際に家庭から色々な種を持ち寄ったところ、種の形や色大きさなど様々なものがあることを知る。

持参した色々な種を植えたらどうなるだろうかという疑問が芽生え、植えてみることにした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・苗として育てているものについては、子どもたちが見える場所に設置しており、野菜の生長を見守れるようにしたところ、休み明けに実や苗が大きく伸びており、花が咲いていることに気づく姿が見られた。花の色や大きさも様々あり、発見を言葉にする姿があった。
- ・関心のある子が中心に水やりを行う。夏の暑い日に葉がしおれかけているところなども見て感じる部分であった。水をあげなければ育たないことをあらためて知った。
- ・家庭から持ち寄った種は発芽したものと発芽のないものがあった。なぜだろうという疑問をもつ。同時にまいた種の全てが発芽した野菜については、野菜によっては発芽しやすいものもあることを知った。
- ・収穫した野菜は、収穫してすぐに触ったり、においを嗅いだりという経験をし、グループの友だちと自分が感じたことを言葉にし、意見交換を行う。子どもたちの目の前で半分に切って中を見る経験をした後に、給食室で火を通してもらい口にする。自分たちの日頃食べているものとの違いや、同じところなどを感じることができた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・野菜嫌いな子も多い中、自分たちで育てたり、種を持ち寄ったりすることで、関心を持つきっかけとなった。また、自分たちが携わったことで、一口口に入れてみる姿や、食べてみようという気持ちが働くきっかけになった。
- ・活動をきっかけに、給食の野菜や果物の種を持ち帰り、家でもまいてみるという姿があった。やってみたいという気持ちが生まれたり、不思議に思ったりするなど、育ちが伺えた。
- ・実がつかなかった野菜もあったが、花を使って色水ができることを発見した。実際の実としての野菜以外の接点も持つことができ、身の回りの植物への関心へとつながった。